

お詫びでは済まされない ～福田総理辞任に思う～

◆無責任な政権放棄

福田総理の突然の辞任には忸怩たる思いですが、まずは与党の一員として国民の皆様にお詫び申し上げます。

昨年この時期、私は安倍総理辞任に伴う総裁選について、「情けない総裁選にお詫び」というタイトルでケンタ通信を発行しました。しかし、今回はお詫びでは済まされないと感じています。

どうして政治に命を懸けられないのか！一政治家として義憤に駆られています。いやしくも一国を指導する立場にある人間が、国家の危機にあって政権を投げ出すとは信じられません。社会保障の将来を描く5つの安心プランを出し、中小企業の生死を分かち総合経済対策を辞任3日前に打ち出したばかりなのに無責任です。国民的課題が山積する中、自分の手に余る問題に対して総理としてけじめをつけられなかった安倍氏も福田氏も、ひ弱過ぎる二世議員だったと言わざるを得ません。

◆小沢代表の政策は

国民の皆様が「一度、民主党にやらせてみれば？」と思われる気持ちもよく分かります。しかし総理辞任の翌日の新聞紙面は民主党の政策について以下のように報道しています。

小沢代表は「金は十分にある。(財源不足を指摘する人は)洗脳されているんだ。大蔵省に」と述べています。一方、前原誠司氏からは民主党のマニフェストにある農業者戸別補償制度や子育て支援対策など

の財源について、「小沢代表の行革努力だけで捻出するのは難しい」と批判が出ている。無投票3選が確実となり、党内での議論は実現しなくなりました。

◆自民・民主 若手の共通点

さらに思想のない数合わせも問題です。参議院においては、民主党の離党者らが「改革クラブ」を結成し、民主党が単独で過半数を取れなくなりました。新聞報道では「共産党は審議拒否などに同調しないことが多いから、社民党との共闘場面が増え、左翼バネが強まる」とされています。

私は先日、民主党の若手代議士とある大学で3時間にわたる討論会を行いました。その議論の中で若手の政策思想に対する考えは自民も民主もほとんど変わらないことを再確認しました。しかもその彼が「社民党は党の体をなしていない。社民党の政策とは絶対に同調できない」と話していました。民主党内では旧社会党系議員が存在し、自民党よりいわゆる右と左の差が大きいのが現実です。

◆政界再編も政策本位で

経済、社会保障が行き詰る中、政治空白は国民にとってマイナスでしかありません。自民が政権を維持しようが、民主が政権を奪取しようが、これからは経済政策や外交、道州制などを争点に政策を問うべきだと思います。そのためには政界再編も恐れず、政策本位で活動して参ります。

衆議院議員

松浪健太